

## EF-3-2 分野横断型講義におけるチーム基盤型学習 (TBL) について

○西脇 敬二<sup>1</sup>, 川瀬 篤史<sup>1</sup>, 和田 哲幸<sup>1</sup>, 八木 秀樹<sup>1</sup>, 川崎 直人<sup>1</sup>, 伊藤 栄次<sup>1</sup>,  
岩城 正宏<sup>1</sup>

<sup>1</sup>近畿大薬

近畿大学薬学部医療薬学科では、1年次前期配当の「薬学概論」の一環として、分野横断型講義とその中のメニューとしてチーム基盤型学習 (TBL) を実施している。まず分野横断型講義<sup>1)</sup>とは、一度の講義で、化学や生物学といった基礎科学分野から、公衆衛生学、薬理学、薬物動態学など発展的な医療系分野、そして臨床に至る薬学全分野に亘って、複数の教員が担当する講義である。この講義の目的は、それら各分野が相互に関連しており、基礎科学科目が高いレベルでの薬学的理解に結び付くということ認識させることである。内容は「がん」と「アスピリン」の2つをテーマにし、それぞれに「病気から薬学を見て」と「薬から薬学を見て」という題をつけ、1つのテーマに対し90分×2回の講義をし、その後にTBLによる発展的学習を行った。幅広い分野の知識を講義するため、なかなか理解ができない学生もいるが、TBL特にGRATによって、「理解できた」あるいは「楽しく勉強できた」と評価してくれた学生が多く存在した。またTBLを取り入れることにより、薬学の学習全般的に積極性が増したと多くの学生に評価されていた。全体的にTBLに対しては好意的に受け入れられているようであったが、ピア評価に関しては、やはり難しいようである。この原因としては、他人を評価することには慣れていないことと、TBLが2回しか実施しておらず、評価をするには時間的に短いからではないかと考えている。

1) Yasuhara T., Kawasaki N., Yagi H., Ito E., Kawase A., Otori T., Wada T., Matsuyama K., Iwaki M., *Yakugaku*

*Zasshi*, **130**, 1647-1653 (2010).